

集落ぐるみの金網柵設置によるイノシシ被害対策

～伯耆町父原地区の事例～

1 取組経緯

伯耆町父原地区（戸数24戸うち農家19戸）は中山間地にあり、稲作の他に数戸が白ネギを栽培している。10年程前から、イノシシが畑地に出没し作物に被害を与えていたが、平成17年から特に被害が多発するようになり、個別の対策では限界を感じていた。集落内で「何とかしなければ」との声が大きくなり、本格的な対策を望む声が多くなっていった。そこで、中山間地域総合整備事業を活用して集落ぐるみで被害対策を実施した。

2 取組内容

- (1) 集落内で被害の現状、対策の必要性、事業負担等を協議した（平成18年4月上旬）。
- (2) 集落役員で試案を作成し、県や町と相談しながら住民の意識統一を図り、推進委員を決めて集落の事業として取り組むことになった（4月下旬）。
- (3) 集落、町、県とで現地踏査し、侵入防止柵の設置ルートについて調査を実施した後（5月下旬）、ルートを協議して決定した（6月下旬）。
- (4) 近隣集落の応援を得て、設置ルートの除草作業を行い設置工事に着手した（8月上旬）。
- (5) イノシシ団による集落支援で柵の設置（9月上旬）、休日毎に集落の共同作業を実施して工事が完成した（10月下旬：総延長約1200m）。
- (6) 柵設置後の被害状況を確認した（11月）。



▲集落内で対策計画を協議



▲計画ルートを現地確認（現状は個人設置）



▲集落・住民による柵の設置作業



▲完成後はみんなで維持管理

3 取組効果

- (1) 柵設置後、イノシシは柵の周辺に出没の痕跡はあるものの、畑地への侵入はなくなった。
- (2) 維持管理に管理委員を4名選任し、点検・保守を実施するように自主的な取組が始まった。
- (3) 集落ぐるみの取組を通して、「この土地を・この地域を守る」という意識が高まった。

【柵の設置ルート概略図】

高さ 1.2m 金網柵
施工延長 1,218m
工事費 約 2 百万円
直営施工
受益面積 15ha



【柵設置後の維持管理】

- 柵の周辺がブッシュにならないよう草刈りを行う。
- 柵が破損していないか点検する。
- 侵入された箇所がないか見回る。
- 柵周辺のイノシシの痕跡がある場所で捕獲おり・捕獲わなを設置し、被害を与える可能性のある個体を中心に捕獲する。